

「気候・自然・人と社会に関する開示レポート」を発行 ～ TISFD β 版を踏まえ、「人と社会」分野を新たに含めた国内先進事例 ～

カナデビア株式会社は、本日、気候・自然分野のフレームワークである TCFD 提言および TNFD 提言に加え、人と社会分野に関する開示フレームワークとして開発が進められている TISFD Framework Beta Version 0.1（2026 年 5 月公表、以下、TISFD β 版という）の考え方を反映した「気候・自然・人と社会に関する開示レポート」を発行しました。このような開示事例は国内では限られており、当社の先進的な取り組みを国内外に発信し、国内外のステークホルダーとの対話の充実を図ります。

■本レポートのポイント

- TCFD・TNFD の提言に加え、TISFD β 版の考え方を取り入れた開示
- 気候・自然・人と社会に関する「依存・インパクト・リスク・機会」の横断的分析
- 「2050 年サステナブルビジョン」およびその実現に向けた重要課題「7 つの成功の柱」を紐づけた環境価値・社会価値・事業価値の創出プロセス可視化
- 日英同時開示によるグローバルな情報アクセスの確保

レポート全文：[気候・自然・人と社会に関する開示レポート](#)

サステナビリティ課題は「個別」から「一体」へ

近年、企業には気候変動への対応に加え、生物多様性の保全、人権尊重、責任あるサプライチェーンの構築など、より広範なサステナビリティ課題への対応が求められています。一方で、これらの課題は相互に関連しており、個別に捉えるのではなく一体的に把握・対応することが、経営リスクの低減と新たな成長機会の獲得の双方に直結します。こうした背景を踏まえ、本レポートでは気候・自然に加え人と社会の視点を取り入れ、「依存・インパクト・リスク・機会」を包括的に分析しました。TISFD β 版は、人権、労働安全衛生、多様性、地域社会との関係など、人と社会に関する企業の依存・インパクト・リスク・機会を把握し開示することを目的としたフレームワークです。当社は、この考え方を参照し、バリューチェーン全体を通じた事業活動と人・社会との関わりを分析し、サステナビリティの戦略や移行計画に反映しています。

2050 年サステナブルビジョンから逆算した価値創造の道筋

当社グループは、2050 年サステナブルビジョンとして、「環境負荷をゼロにする」、「人々の幸福を最大化する」を掲げ、同ビジョンの実現に向けた重要課題「7 つの成功の柱」を設定してい

ます。当社グループが目指す持続可能で強靱な社会「Resilience Eco Society®」は、これらの取り組みの先にある将来像です。本レポートでは、気候・自然・人と社会に関する課題をいかに事業機会につなげ、環境価値・社会価値・事業価値をどのように創出していくのかの道筋を具体的に示しています。

当社は、2021年にTCFDに基づく開示を開始し、2024年TNFDレポート発行するなど、サステナビリティに関する取り組みの開示を積極的に行っています。当社は今後も、ステークホルダーとの対話を通じて開示の質と粒度を継続的に高め、サステナビリティへの取り組みと中長期的な企業価値向上の連動を図っていきます。

【補足】

■TCFD・TNFD・TISFDはサステナビリティ分野における情報開示に関する国際的なフレームワークであり、詳細は下記のとおりです。

略称	TCFD	TNFD	TISFD
英語 正式名称	Task Force on Climate-related Financial Disclosures	Taskforce on Nature-related Financial Disclosures	Taskforce on Inequality and Social-related Financial Disclosures
日本語 名称	気候関連財務情報開示タスクフォース	自然関連財務情報開示タスクフォース	不平等・社会関連財務情報開示タスクフォース
対象	気候変動（GHG排出、脱炭素、気候リスク・機会）	自然資本（生物多様性、水資源、森林、土地利用、生態系サービス）	人（人権、労働、安全衛生、賃金、不平等、ウェルビーイング、人的資本、社会関係資本）
成果物と 発行時期	TCFD提言 2017年6月	TNFD提言 2023年9月	TISFD Framework Beta Version 0.1 2026年5月



■Resilience Eco Society®のイメージ図

(終)